

令和7年8月教育委員会定例会 議事録

日時 令和7年8月7日（木）

場所 県庁行政棟7階「教育委員会室」

令和 7 年 8 月 教 育 委 員 会 定 例 会 議 事 録

開 催 日 時	令和 7 年 8 月 7 日（木） 13 時 30 分
開 催 場 所	長崎県庁行政棟 教育委員会室
出 席 委 員	前川教育長、本田委員、嶋崎委員、芹野委員、郷野委員
出 席 職 員	狩野教育政策監、坂口教育次長、松尾義務教育課長、岩坪高校教育課長、岩尾学芸文化課長、鬼塚学芸文化課企画監
開 会	（前川教育長） それでは定刻になりましたので、ただいまから、8 月定例会を開会いたします。皆様にご報告いたします。規則により、緒方貴智様外 1 名の傍聴を許可いたしました。傍聴人にあつては、発言はもちろん、私語、談笑、拍手等も禁止されていますのでよろしくお願いします。 なお、本日は、松山委員より所用により欠席する旨連絡をいただいております。 それでは本日の議事録署名委員を、私から指名させていただきます。議事録署名委員は本田委員、芹野委員の両委員にお願いします。
前回議事録承認	次に、7 月定例会の議事録は各委員に送付させていただいておりますが、承認ということによろしいでしょうか。 「異議なし」と呼ぶ者あり （前川教育長） ありがとうございます。ご異議ないようですので前回の議事録等は承認することといたします。それでは、7 月分の署名をお願いします。よろしくをお願いします。 本日提案されている議題等のうち冊子 2 及び冊子 3 につきましては、教育委員会の会議の非公開に関する運用規定により、非公開として協議を行いたいと思いますが、ご異議ございませんか。 「異議なし」と呼ぶ者あり （前川教育長） ありがとうございます。ご異議ないようですので、そのように進めさせていただきます。
冊 子 1	それでは教育委員会 1 の冊子について審議をいたします。まず、第 14 号議案について提案理由の説明をお願いします。

第 1 4 号 議 案	(岩坪高校教育課長) 長崎県立高等学校の通学区域に関する規則の一部改正についてご提案いたします。冊子 1 の 1 ページ、第 1 4 号議案をご覧ください。 まず、提案理由についてですが、高等学校の全日制の課程における普通科の通学区域、いわゆる学区について、県北学区の宇久高等学校において、離島留学特別選抜を新たに実施するため、長崎県立高等学校の通学区域に関する規則の一部を改正しようとするものです。 改正の内容については、2 ページの新旧対照表をご覧ください。改正部分は下線の部分になりますが、表の左側の改正後のように、第 3 条を「高等学校の次の各号における学区は、県全域とする」とします。また、第 3 号をこれまでは具体的な校名やコース名等を記載しておりましたが、「離島留学制度の実施校（長崎県公立高等学校入学者選抜実施要領における離島留学特別選抜実施要領に定める実施校をいう。）において、同制度により入学する者」と改正いたします。なお、施行日につきましては、令和 8 年 4 月 1 日となります。 以上のとおり、長崎県立高等学校の通学区域に関する規則の一部改正についてご提案をいたします。ご審議のほどよろしくお願いいたします。
質 疑	(前川教育長) これより第 1 4 号議案について質疑・討論を行います。ご質問等はありませんか。 ――― な し ―――
採 決	(前川教育長) それでは、質疑、討論をとどめて採決をいたします。 第 1 4 号議案は原案のとおり可決することにご異議ございませんか。 「異議なし」と呼ぶ者あり
可 決	(前川教育長) ありがとうございます。ご異議ないものと認めます。 よって、第 1 4 号議案は原案のとおり可決することに決定されました。 続きまして報告事項に入ります。報告事項（１）について説明をお願いします。

報告事項（１）

（松尾義務教育課長）

報告事項（１）令和７年度全国学力・学習状況調査の結果について、別冊資料「長崎県の結果の概要」を用いてご説明いたします。

本調査は、１に示した目的のもと、全国すべての小中学校を対象に国が実施する調査であり、本県においては、６月定例教育委員会で説明いたしました本県独自の県学力調査と併せて、本県児童生徒の学力等を継続的に検証し、教育施策や学校での指導の改善に活用している調査でございます。

２の実施対象にありますとおり、小学校第６学年と中学校第３学年の年齢にあたる児童生徒が対象となっております。

３の調査内容にありますように、教科に関する調査として、小学校は国語、算数、理科、中学校は国語、数学、理科が実施されました。また、学習状況や生活習慣等をみる質問調査、いわゆるアンケート調査が実施されました。

４の調査期日、５の実施校数、参加児童生徒数は、記載のとおりとなっております。

２ページをお開きください。令和７年度の本県及び全国の平均正答率および平均正答数を記載しております。今回、本県では、国語は、小学校・中学校ともに全国と同程度でした。一方、算数・数学は、算数が２．０ポイント、数学が２．３ポイント、全国平均を下回りました。理科につきましては、小学校は全国と同程度でありましたが、中学校理科はCBTいわゆる端末を使った調査であり、結果はIRTスコアとなっており、５ポイント下回りました。

３、４ページには各教科の正答数分布グラフを載せております。正答数分布については、各教科とも全国の傾向と大きな違いはみられませんでしたが、算数・数学につきましては、上位層の割合が全国と比べてやや小さいことが、平均正答率の差として表れているものと考えているところです。

５ページの「３結果の総括（３）各教科の本県児童生徒の課題と結果」をご覧ください。本調査において、我々が特に課題意識をもつべきものとして整理した表を記載しています。太字で示しているものが継続した課題となっており、やはり気がかりな点となっております。本日は、時間の関係上、中学校数学で具体例を紹介いたします。中学校数学の欄をご覧ください。「用語の意味を正しく理解する」という課題に関連する問題が①と④となっております。１６ページをご覧ください。①の問題が、１から９までの数の中から、素数であるものをすべて選ぶ問題です。正答率は全国が３１．８％、本県は２８．４％でした。正答は２、３、５、７の４つの数になるのですが、「１を含めた誤答」が全体の５３．１％という結果でした。「素数とは、１と自分自身しか約数をもたない自然数のことである。」という素数の定義に関連して、「だから１は素数ではない。」という理解まで結びついていない生徒が多くいることが分かります。また、④は、一次関数の問題です。正答率は全国が３４．

質 疑	7%、本県は29.2%であり、最も多かった誤答は、式 $y = 6x + 5$ に $x = 2$ を代入し、y の値を求め解答したもの、つまり「17」と解答したものでした。x の増加量と x の値の区別がついていない、変化の割合の意味が分からないなど、用語の意味を理解できていない生徒が多くいることが浮き彫りになりました。知識・技能の定着については、昨年度に引き続き、他の教科においても課題となっており、獲得した知識や技能が自分のものとして使えることができるように定着を図っていく必要があると捉えています。 続いて質問調査についてご説明いたします。6ページ、7ページをご覧ください。特徴的な結果が見られた質問について説明します。 まずは、6ページ上段の表の1「人の役に立つ人間になりたい」、2「いじめはどんな理由があってもいけない」、この2つにつきましてはここ10年以上全国平均を下回ったことがございません。かつ、平成30年度からは、95%を超えている状況でございます。これは本県の教育の成果として、受け止めているところです。下段の表をご覧ください。5「授業以外に1時間以上の学習をしている」、中学校は2時間以上ですが、していると回答した本県の児童生徒は、全国平均を下回っており、特に中学校においては、マイナス8.9ポイントとなりました。引き続き、学校と家庭、地域が連携をしながら子供たちの授業外での学習を支えていくこと目指し、昨年度配布した「学びの習慣化メソッド」を活用した取組が各学校において推進されるよう、研修会をはじめ、様々な機会を通して周知徹底を図ってまいりたいと考えているところです。 7ページの「地域や社会との関係性等」においては、概ね良好な結果となっており、児童生徒の社会への関心の高さがうかがえます。また、「ICT機器の活用等」について、「授業でPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用している」と回答した児童生徒の割合が全国平均を下回っておりますが、令和6年度と比較して小中ともに10ポイント以上増加しています。各学校の教育活動において、様々なICT機器の活用が日常化されていることがうかがえます。 また、昨年度まで資料最後に各市町の状況として資料を掲載しておりましたが、今年度は文科省の方針を鑑み、公表資料のなかには掲載しておりません。各市町が、それぞれの判断で公表を行うこととしております。以上、ご報告いたします。 (前川教育長) ただ今の報告に関するご意見、ご質問等はございませんか。 (本田委員) 素数の問題があったと思うのですが、実は大学生も1を素数と勘違い、思い込んでいる子は結構いるわけでございまして、構造的に
------------	---

何があるのかということ、本学の学生と話をしたことがあります。

1 と答えた子は本質的にわかっていないわけではないと思います。1 と自分以外にしか約数を持たないと考えるわけですから、ひょっとしたら賢いのではないかと思います。本質的なところで何が違うのか。当然小学校・中学校で教えることはできないのですけれども、ただ素数の隣に何で素因数分解という節があるのかということが大事なところです。素因数分解というのは、1 をかけてしまうと、何回でもかけていいわけです。1 という数は無限の数ですので、それを無視しないと素因数分解は存在をしないというところが1 を外している解決策なんですね。エラトステネスのふるいというのがありますが、その中で1 を外しているのはそういった理由だからだと思います。素因数分解の一意性というものが専門的なところであるのですけれども、例えばそういう構造をよく知らせていくということも必要ではないかと思います。1 をなぜ外しているのか、素因数分解との関連性が実はあるというところがあると思います。

もう1つ関数の変化のところですけども、これは増加量というもので、高校では平均変化率という言葉に変わりますが、変化の割合を求めている理由がなぜあるのかというところですね。次に、一次関数がついてきて、傾きが出てくるんですね。傾きの意味は傾いているから傾きではないわけです。傾きを英訳するとまったく違う表記になります。ですので、教えている人がきちっとつなげて教えていけるということが大事ではないかと思っております。本質的なところで、指導する側にも、やはりある一定の知識量を持った上で教えていかないといけない部分もあるのではないかと思います。全国的に低いのは、やっぱり理屈的にわかるわけです。一番の課題だというふうに思います。私の感想です。ご質問等ではございません。

(前川教育長)

ありがとうございます。他にご質問等ございませんか。

(芹野委員)

全国平均と比べてあるということは見やすいのですが、全国平均ということは中央値だと思うので、上があったり下がったり、そこは、本県は比較しなくていいのでしょうか。そういった比較の仕方を公表しなくてもいいのかという気がするのですがいかがですか。

(松尾義務教育課長)

今年度文部科学省の公表の仕方が変わりました、3段階に分かれての公表となっております。最初に公表されたものが、全国の概要版が出されまして、2回目に出たものが、全国の結果から分析されたもの、そして実は各県の状況も、このときに私たちの方にもデー

報告事項（２）	タが送られてきた状況です。例年、各都道府県の結果が公表されておりますが、それについては８月に公表するということで、３番目に出てくるということです。各都道府県のことについては、私たちの方もまだわからない状況ということになります。以上でございます。 （嶋崎委員） 授業以外に１時間以上、中学校２時間以上の学習をしているという調査項目で、長時間学習をしているエリアというのは、どのエリアかという何か特徴的なことあるのですか。 （松尾義務教育課長） そこについては把握できていない状況です。 （嶋崎委員） 東京と長崎の日没の時間が１時間違うわけですね。だから、早く暗くなったところが早く食事もとって、早く勉強を始めるというような、そういう地域性があるような気がします。長崎はやっぱ日が長いので、クラブ活動も遅くまでできるので、そういう要因が何かありそうな気がします。だからそういった分析というか、地域性をご覧になられてもいいのではないかと思います。 （前川教育長） ありがとうございます。他にございませんでしょうか。 ――― な し ――― （前川教育長） よろしいでしょうか。それでは、ご意見ないようですので、続きまして報告事項（２）について説明をお願いします。 （岩尾学芸文化課長） 冊子１の４ページをご覧ください。報告事項（２）「文化部活動における本県高校生の活躍について」ご報告いたします。 ７月２６日から香川県で第４９回全国高等学校総合文化祭、かがわ総文祭２０２５が開催されました。全国高等学校総合文化祭は、全国の高校生による国内最大規模の芸術文化の祭典で、参加校約３，０００校、都道府県代表の高校生約２万人が全国から集まり、約１０万人の観覧者が見込まれる大きなイベントです。 今年は総合開会式から前川教育長にも参加いただき、マーチングバンド・バトントワリング部門、日本音楽部門、器楽・管弦楽部門等を観覧し、生徒たちを激励していただいたところです。 本県からは、３１０名の生徒が参加し、（１）個人では、弁論部
----------------	--

質 疑	門で活水高校 3 年の竹内さん、放送部門で諫早東高校 3 年の峰さんが共に 3 位相当の優秀賞を受賞するなど 3 名が入賞を果たしております。また、団体では、西陵高校吹奏楽部が総合開会式後のパレードでグッドパレード賞、マーチングバンド・バトントワリング部門で講評者特別賞と、どちらも 1 位相当の賞を受賞し、3 年連続のダブル受賞の快挙となりました。このほか、団体では計 6 校が入賞を果たしております。 次ページをご覧ください。7 月 22 日から東京で開催された NHK 杯全国高校放送コンテストでは、(1) 個人では、アナウンス部門で五島高校 3 年の熊川さんが 3 位相当の優秀賞を受賞したほか、朗読部門で長崎北陽台高校 2 年の只安さんが本県勢 28 年ぶりの優勝を果たすなど、3 部門において、個人で 8 名、団体で 2 校が入選・入賞を果たしております。報告は以上になります。 (前川教育長) ただ今の報告に関するご意見、ご質問等はございませんか。 ――― な し ―――
報告事項 (3)	(前川教育長) よろしいでしょうか。それでは、ご意見ないようですので、続きまして報告事項 (3) について説明をお願いします。 (鬼塚学芸文化課企画監) 冊子 1 の 8 ページ、報告事項 (3) をご覧ください。ながさきピース文化祭 2025 についてご説明いたします。 資料の 1 から 7 に概要を記載しておりますとおり、いよいよ、あと 1 か月余り、9 月 14 日日曜日に、全国的な文化の祭典、第 40 回国民文化祭、第 25 回全国障害者芸術・文化祭、統一名称「ながさきピース文化祭 2025」が開幕します。 期間中に開催されるイベントの総数は、7 の事業構成に記載しておりますように、県・市町、文化団体主催により、180 以上のイベントが実施される予定です。 9 月 14 日にアルカス SASEBO で開催される開会式は、委員の皆様方にも実行委員会から直接ご案内があつているかとおもいますが、スペシャルアンバサダーのさだまさしさんなど、長崎にゆかりのある多様な著名人が出演予定となっております。式典では、合唱やオーケストラによるプロローグ、古代から現代、未来へと向かう本県の歴史を表現するフェスティバル、郷土芸能やダンスで大会成功への思いを共有するエピローグにより構成されており、この後ご紹介しますが、本県の児童生徒の出演も予定されています。 また、11 月 30 日、ベネックス長崎ブリックホールを会場とする閉会式では、次期開催県である高知県への大会旗の引き継ぎや、

質 疑	グランドフィナーレとして本県伝統芸能や合唱、ダンスが披露される予定となっております。 9 ページをご覧ください。10 県立学校児童生徒の主な出演予定として、ピース文化祭期間中に行われる様々なイベントでの児童生徒出演予定について、一部ではありますが記載をしております。開会式では、プロローグの合唱に、諫早高校など6校が、閉会式ではグランドフィナーレに、希望が丘高等特別支援学校の和太鼓部も出演します。 この他、駅や空港など県内の「みなと」にアート作品を展示する「みなとでアート」への出品、それから大学生のビブリオバトル全国大会の会場では、中・高校生によるビブリオトークや、高校生による長崎ゆかりの書籍のPOP展示がおこなわれる予定であり、また、長崎県障害者芸術文化祭への児童生徒の出演・作品展示等行われます。この他にも、各市町が主催する総合芸術祭等にも多数参加がある予定だと聞いております。 また、米印で記載しておりますが、例年学校で開催されている文化祭など学校行事について、「ピース文化祭応援事業」として位置づけていただき、ピース文化祭の機運を高めるため行事期間中の校内アナウンスやのぼり掲揚等機運醸成のための取組を行っていただいているところです。 最後に、11 県教育委員会主催事業でございますが、九州地区・長崎県の民俗芸能大会など、4 事業について開催予定としており、10 ページ以降に、少し詳しく内容を記載しております。 以上、このまたとない機会に児童生徒がピース文化祭にさまざまな形で関り、芸術・文化に対する興味関心を一層高めるとともに、地域に伝わる伝統文化等の発信等をとおり、文化を通じた人づくり、基盤づくり、地域づくり将来への継承に繋げていければと考えております。本日お手元には、公式リーフレットもお配りしておりますので、のちほど、ご覧いただければと思います。ご報告は以上となります。 (前川教育長) ただ今の報告に関するご意見、ご質問等はございませんか。 ――― な し ――― (前川教育長) よろしいでしょうか。それでは、ご意見ないようですので、以上で報告事項を終了いたします。 次の議案審議から非公開で行いますので、傍聴人の方及び報道関係者の方は恐れ入りますが退席をお願いいたします。
------------	--

冊 議	子	2 題	(別紙議事録)
冊 議	子	3 題	(別紙議事録)
			1 5 時 1 0 分、本日の会議を終了